



※改造した FD1231T と PC-9821 を接続する際は、

端子のピンアサインに注意すること。

FD1231T基板 抵抗、ジャンパ位置 プロット図  
S=N/S

### 1. 概要

本図面は、PC-9821 Ls12/D10 が標準で搭載している FD1238T を取り外し、PC/AT 互換機用の FD1231T を接続する際に FDD に対して改修を行う図面である。

PC-9821 Ls12/D10 への接続は、別途「FDDインターフェイス変換基板回路図」と合わせて改造を行うこと。

### 2. 材料

PC/AT 互換機用の FD1231T (コントロールチップに FDN30x を搭載し、P/N が下 4 桁 -3xx-x の個体

### 3. 改造箇所比較表

ジャンパ	動作モード*	PC-9821 ( Xa7 以降 )	PC/AT 互換機	備 考
R1		オープン	0 ohm	
R2		0 ohm	オープン	
R5		0 ohm	オープン	
R6		1k ohm	オープン	
R7		0 ohm	オープン	
R11		0 ohm	オープン	
J2		0 ohm	オープン	
JA1		1 側	2 側	
JA2		1 側	1 側	
T/H		オープン	ショート	
HDR		ショート	ショート	
2HD/2DD SW		撤去	設置	b接点

### 4. 特記事項

A. 「JA1」はドライブ番号のジャンパである。2台目のFDDとして増設する場合は「2」側のままとする。

「JA1」ジャンパを撤去し「DX」パターンにジャンパピンを追加すると、ドライブ番号を簡単に変更できる。

B. 「JA2」は、HEAD LOAD信号またはIN USE信号をFDN30xのどのピンに入力するか選択するジャンパである。

C. 「T/H」「HDR」は、個体により既存の設定状況が異なるが、PC-98用として転用する場合は上記に従い改造すること。

D. 「T/H」は、Density信号を用いてFDDの回転数を切替えるか否かを選択するジャンパである。

よって、PC-98用として転用する場合にこのジャンパをショートするとFDDが暴走するので注意すること。

E. 「2HD/2DD SW」は、PC-98用として転用する場合は必ず撤去すること。

残置すると、「2HD/2DD SW」->「FDN30x 42ピン」->「FDN30x 26ピン」->「R7」の順に+5Vが印加され、

結果的にDensity回路に+5Vが直接印加される状態になる為、故障の危険がある。

工事名称 PC-9821 Ls12/D10 PC/AT 互換機用 FD1231T 接続計画

工事  
設計図

図面名称 PC/AT 互換機用 FD1231T 改修図

縮尺 N / S

1

 試運転の資料館  
Library of Shiunten

1